

研究 成 果 報 告 書

研究テーマ (和文)	18 世紀スウェーデンにおける水産資源認識と漁業振興論に関する研究		
研究テーマ (英文)	Awareness of Aquatic Resources and Argument for Promotion of Fisheries during 18 th century in Sweden		
研究期間	2019年 ~ 2023年		研究機関名 久留米大学
研究代表者	氏名	(漢字)	齊藤 豪大
		(カタカナ)	サイトウ タケヒロ
		(英文)	Takehiro SAITO
	所属機関・職名		久留米大学経済学部・准教授
共同研究者 * 2名をこえる場合は、【別紙追加用紙】(P3)に3人目以降を追記してください。	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		

概要 (600 字～800 字程度にまとめてください。)

本研究の目的は、18 世紀スウェーデンにおける漁業振興論に関する史資料の分析を通じて、前近代ヨーロッパの人々が持つ水産資源理解とそれに立脚した資源利用に関わる問題の一端を究明し、現在の水産資源利用をめぐる思想的問題を相対化させる素地を提示することにある。

東はバルト海、西は北海へと接続するカッテガット海峡に面しているスウェーデンは、18 世紀中葉に至るまで漁業が十分に発展しておらず、水産物を他国から輸入していた。重商主義政策が展開されていた同国にとって、水産物の輸入代替は政策上の課題であり、18 世紀前半から漁業振興に関する議論が展開された。本研究課題では、同時期における漁業振興の論点とその際の背景となる水産資源認識がいかなるものであったのかを考究することを目的として研究を進めてきた。また、史料を渉猟する中で 18 世紀前半における漁業振興問題に限定せず、グリーンランド周辺海域での捕鯨振興問題、そして大規模な水産資源変動が発生した 18 世紀後半から 19 世紀初頭において看取される水産資源の性質をめぐる議論についても検討を行った。現時点で明らかとなった点は以下の通りである。

まず、18 世紀前半における漁業振興論では、水産資源の更新性が注目されていた点が明らかとなった。同国では鉱業が基幹産業であったが、鉱石と製錬用木材資源の枯渇への懸念から、鉱産品生産制限政策がとられており、代替産業の育成が急務であった。上述にある資源の性質や北海での鯨漁で繁栄していたオランダの存在、そして船員養成という観点から、漁業や水産業に対する期待と振興施策の必要性を持っていたことが明らかとなった。ただし、1747 年からスウェーデン西岸に鯨が大挙してからは、同地における沿岸漁業が活況を呈すことになり、漁業政策に関する議論は次第に変化を遂げていった。

18 世紀後半のスウェーデン西岸地域では鯨漁と関連産業が成長を遂げていくが、資源変動の影響を大きく受けていたことが明らかとなっている。1760 年以降、鯨の出現ポイントが次第に北上したり、魚群が出現しない時期が発生したりする事態があり、ついには 1810 年以降、同地には鯨が到来しなくなった。このような資源変動の原因について、王立科学アカデミーの会員をはじめとして様々な人々が漁業に関わる調査活動を行っており、活動報告書などを通じて、水産資源というものがいかなる性質であり、どのように利用していくべきかという主張の一端が明らかとなった。

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題	18 世紀スウェーデン漁業政策からみる水域管理：真珠採捕に関する問題を中心に				
	著者名	齊藤 豪大	雑誌名	『西洋史学論集』		
	ページ	62～65	発行年	2 0 2 1	巻号	58
雑誌	論文課題	18 世紀後半のスウェーデンにおける捕鯨奨励と補助金政策：グリーンランド会社(1774-1787)の支援に注目して				
	著者名	齊藤 豪大	雑誌名	『西洋史学論集』		
	ページ	1～17	発行年	2 0 2 3	巻号	60
雑誌	論文課題	18 世紀スウェーデンにおける漁業管理に関する法的整備と変化				
	著者名	齊藤 豪大	雑誌名	『西洋史学論集』		
	ページ	52～55	発行年	2 0 2 4	巻号	61
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録（100 語～200 語程度にまとめてください。）

This study examines the awareness of aquatic resources in Sweden during the 18th century and clarifies how this understanding influenced arguments for promoting fisheries. In the first half of the 18th century, political issues regarding the promotion of fisheries arose because Sweden relied on imports of marine products and planted a mercantile policy to attain import substitutes.

We analyzed some pamphlets promoting fisheries published in Sweden in the first 18th century. For instance, Anders Bachmansson, one of the most renowned Swedish mercantilists, advocated policies for activating the fishing industry (primarily promoting the North Sea fishery), arguing that it could contribute to economic development by utilizing aquatic resources considered inexhaustible. After that time, the Swedish fisheries industry, mainly coastal fishery in the western area, developed in another way from the mid-18th century because a herring accidentally came in abundance in Bohuslän, situated on the west coast of Sweden.

In addition to this analysis, we considered the argument that the disappearance of the shoal of fish at the beginning of the 19th century caused marine pollution from dumping fish oil waste. For example, a member of the Royal Swedish Academy of Science prepared a report on the environment of Sweden's west coast to attempt to elucidate the depletion of fish schools and the reasons for their transition from one area to the other.

【別紙 追加用紙】

* 記入がない場合は、この用紙を削除してください。

研究代表者名

共同研究者	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
	氏名	(漢字)	
		(カタカナ)	
		(英文)	
	所属機関・職名		
氏名	(漢字)		
	(カタカナ)		
	(英文)		
所属機関・職名			
氏名	(漢字)		
	(カタカナ)		
	(英文)		
所属機関・職名			